



今回は、国際貢献活動の第四弾、関市立図書館主催イベントの報告です。

◇ 関市立図書館で人間・ゴリラ・熱帯雨林の共生を考えるイベントを行いました

日時：平成28年11月6日(日) 13:30 ~ 15:00

主催：関市立図書館

講師：中部学院大学・竹ノ下祐二准教授

関高校3年生5名 後藤宏文 小川修平 木村岳瑠 船戸乃吏佳 宮尾結衣

司会：関高校2年生 山田康平

参加：一般市民の方28名

目的：SGH活動の一環として行った動物園でのゴリラ研究の成果を発表するとともに、ゴリラの棲む熱帯雨林と人との共生の道を探る。

協力：中部学院大学

- 7月の日本霊長類学会で研究成果を発表した関高3年生5名が、中部学院大学教育学部・竹ノ下祐二准教授とともに、関市立図書館の市民公開講座の講師を務めました。
- 関市立図書館では、地域の文化人や研究者を講師とした市民公開講座を開いています。塚原隆文・図書館長（本校同窓生）のお話によれば、高校生が講師を務めるのは、今回が初めてのことだそうです。
- 当日は、一般市民の方28名が来場されました。講師の話に熱心に耳を傾けながら、熱心にメモをとっていらっしゃいました。
- 霊長類学会では、研究者を対象としたプレゼンを行いました。今回は一般の方々。専門知識をもっていらっしゃるとは限りません。ゴリラについて楽しみながら学べるようなプレゼンを心がけました。
- 人間と同じヒト科に属するゴリラの社会性や認知能力、感性について、自分たちのフィールドワークの成果をもとに、やや緊張しながらも、ていねいに話すことができました。
- ゴリラとは何か。熱く語る関高生に続き、霊長類学者の竹ノ下先生の登場。野生ゴリラの生態、彼の棲むアフリカの熱帯雨林の現況、そこで暮らすガボンやコンゴの人たちの暮らしぶりについての話が続きます。現地の事情に通じた先生の話に、来場のみなさんも聞き入ったようでした。
- 司会を務めたのは2年生。現在、課題研究で、ゴリラの森と人の共生の道を探っています。文化祭には、熱帯雨林の破壊と農園の関わりを調べつつ、フェアトレードコーヒーのイベントにも参加。SGHで様々なことを学んでいます。



当日の講演のようす

◇ 参加した市民の方々の感想

- 地元の高校生が発表できる機会があるのは非常によいと思います。竹ノ下先生のお話も、フィールド調査の臨場感が伝わって興味深かったです。
- 今まで知らなかった話が聞けてよかった。高校生の発表が素晴らしい発表だった。エコツアーリズムの話は興味深かった。ゴリラツアー、私も行ってみたいです。発表の準備が大変だったと思います。お疲れ様でした。
- 高校生の研究は始まったばかり。もっと長い期間をかけて、より深い研究をしていってほしいですね。また、次の研究を楽しみにしています。

◇ 講師を務めた生徒の感想

鹿児島での学会発表の時のように、体系的な知識を持っている研究者に向けた発表とは異なり、今回は、知識が点としてしか持っていない人、もしくは知識がない人に向けた発表となったので、科学的に語弊のないように気をつけるのではなく、むしろ誤解を恐れず分かりやすい言葉となるように、自分たちの話す言葉が難解な言葉になっていないかを敏感になって考えることに気をつけた。

学会発表の時のように、疑惑に近い目で見られるような発表ではなかったので、その点においては気楽に感じられたが、必ず興味を持ってくれる研究者とは対照的に、一般の方々は自分たちが面白く伝えないと興味を持ってくれないので、聴衆の反応を確かめながら話すのに苦労した。そういう意味では、岐阜新聞と中日新聞に大きい紙面で取り上げていただいたことは、一般の方々に興味を持ってもらえたということで大変うれしいことであった。

学会と関市立図書館で目的の違う発表をそれぞれやったが、将来のことを考えても、例えば、「自分が開発したシステムを学会で理論的に発表する」、「自分が開発したシステムを実用化させるために住民説明会を開く」のように、学者向けと一般向けの発表の使い分けは、自分にとってずっと必要だと思うのでいい経験になったと思った。

約1年間を振り返ってみると、ゴリラに対する考えが大きく変わったと思う。研究で関わるのは最後になったが、個人としてはゴリラの面白さを伝えていければと思う。今のところ電気電子・情報の道を志してはいるが、もし転機があれば霊長類学者になるのではないかといいくらい自分自身もゴリラへの興味が高まった気がしていて、チャンスがあればガボンに行って、森のゴリラ(山極先生いわく動物園よりイキイキとしたゴリラ)を生で見たい気持ちが強くなったと感じている。

最後に他のメンバーにも感謝したいと思う。僕はリーダーという立場だったがフィールドワークの指針を立ててくれたのはいつもみんなだったし、みんなの観察眼にはいつも驚かされた。このメンバーだからこそ素晴らしい研究ができたのだと思う。いつも楽しませてもらったので、それにも感謝しているし、個人的にはこれからも交流を続けていきたい。

また、竹ノ下先生からは、自由にやらせていただいたのが今から思うととても良かったと感じている。自分たちで解決策を練り、そこから仮説を立てそれが学者の本を読んで同じような記述があったときの喜びは、専門家に一から指導を受ける研究では決して味わえなかったと思うので、大学でもこのことを大切にしていきたい。

現在、1・2年生チームがゴリラの行動観察を継続しています。研究成果については、次年度も霊長類学会や市民公開講座で発表する予定です。

右写真：動物園でのミーティングの様子



